

加悦谷

京都府立

加悦谷高等学校

【編集・発行】PTA広報委員会 平成26年2月



“夢をつかめ”加悦谷から未来へ



「ご卒業おめでとうございます」 PTA会長 浪江 秀明

会員の皆様には、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。平素よりPTA活動に格別の御理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

卒業生のみなさん、ご卒業、まことにおめでとうございます。また、陰で見守ってこられた、保護者の皆様、PTAを代表しまして心から、お喜び申し上げます。

さて、卒業生のみなさんは、初々しい姿でご入学されてからはや3年経ち、勉強、クラブ活動等により様々な経験を通じて大きくまた、たくましく成長されたことと思います。今後は進学される方、就職される方等自分の決めたそれぞれの道に進まれるのですが、今後は人生の目標を持って歩んで行くことを期待します。目標を持つことにより、それを実現するために努力をすることによりすばらしい人生の道が開けることと思います。しかし、これからは自分の思い通りにならないことも多々あると思います。ですが、その苦難に打ち勝ってこそ実りある人生になるのではないのでしょうか。

GO TO BEST 「ベストを尽くせ」
「卒業」と言いますとなにかが終わったとの錯覚をされますが、これからが人生の本番であり「始まり」であります。また、高校生活で得られた「友人」は、今後の「一生の友」となることと思います。

両親はもちろん、友人、目上の方々に相談し、アドバイスを受けることにより、実りある人生を実現されることを期待します。

私達も陰ながら応援しています。

結びにあたり役員の皆様を始め、会員の皆様、そして校長先生を始め諸先生の皆様には、格別の御協力を賜り、心より感謝しこの場を借りてお礼申し上げます。次年度以降も新しい役員の皆様のご活躍を先頭に加悦谷高等学校とPTA会員の皆様、在校生皆様の益々のご活躍とご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



「祝 卒業」 校長 北川 鯉平

野田川の川面にきらめく陽射しに、春の訪れを感じる今日この頃となりました。

P T A会員の皆様には、平素から本校の教育活動に格別の御理解・御協力・御支援をいただいておりますことを心より厚く御礼申し上げます。

卒業生の保護者の皆様、お子様の御卒業まことにおめでとうございます。保護者の皆様が手塩にかけて育ててこられた大切なお子様が、立派に本校の教育課程を終えられました。ここに至るまでの御苦勞を思いますとき、その喜びはひとしおのことと拝察いたします。

さて、本年度、浪江秀明会長をはじめ7名の本部役員様、そして各役員の皆様には大変御尽力をいただき、充実したP T A活動が展開されました。おかげさまで教育活動も円滑に進めることができ大変喜んでおります。心より感謝申し上げます。

本年度も、教育方針である3つの「シン」（真…真剣で真の教育、信…信頼関係にもとづく教育、伸…伸ばす教育）を合い言葉に、一人一人の可能性を伸ばす教育に取り組んでまいりました。その結果、進路状況については、厳しい求人状況の中、23名（内公務員3名）が就職内定をもらいました。一方、進学面においても多くの生徒が大学、専門・各種学校等へ合格を果たしました。あと約1割の生徒が最後の挑戦をしているところであります。また、部活動においては、ウエイトリフティング部、陸上競技部、書道部が全国大会で活躍しました。その他の部活動も近畿大会や京都府大会等で活躍してくれました。さらに、本年度は、多くの生徒がボランティア活動にも活発に参加するなど、教室の中では味わえない貴重な体験を通じて、思い出の1ページを刻んだことと思います。

「光陰矢のごとし」月日の経つのは早いもの、巣立ちの日を迎え、3年生のみなさんも感じているところではないでしょうか。

あらためまして、3年生のみなさん、卒業おめでとう。手にする卒業証書には、万感の思いがこもっているに違いありません。これまでの頑張りに拍手を贈ります。

本校で学んだことに誇りと自信を持ち、自己研鑽に励み素晴らしい人生を送ってください。

最後になりましたが、長い間本校の教育方針を御理解いただき、御協力・御支援をいただきました保護者の皆様に再度お礼を申し上げます。これからも、本校最強の応援団として御支援をいただきますようお願い申し上げます。

— PTA会員より —
卒業おめでとうございます

「御卒業おめでとう」

一会員

思い出深き加悦谷高校を巣立つ3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

私は、もし戻ることができるなら高校時代に戻りたいと思っています。むじゃきだった小学生でも、自由を謳歌した大学時代でもありません。くたくたの毎日だったけれど充実していたあの頃に戻って、もう一度野球がしたい。これが私の叶わぬ夢です。

高校生を持つ親となって3年。学校祭などに足を運び、少しでも同じ瞬間を過ごしたいと、必死で子どもの笑顔を追いかけました。生き生きと躍動する子どもの姿を、誇らしく、そしてうらやましく思っていました。

いよいよ巣立ちの時です。3年間の思いを胸に、力強く大きく羽ばたいてください。先が見通しづらい時代だからこそ、夢を持ち、前を向き、自分らしく歩んでいってください。

最後になりましたが、子どもたちを見守り育てていただいた先生方、本当にありがとうございました。



「卒業生の皆さんへ」

一会員

三年間を振り返ってみてどうですか？文化祭や体育祭など数々の学校行事。二年生では修学旅行などたくさんのが思い出されるでしょう。

楽しかったこと、悔しかったこと、辛かったことなどいろいろとあったと思います。

卒業ということで、これからはみなさん一人一人違う道に進まれるわけですが、夢に向かって頑張ってください。最後に友達を大切にしてください。



「卒業おめでとうございます」

一会員

3年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。加悦谷高等学校に入学して、もう3年経つのですね。入学した頃の様子が今でも鮮明に思い出されます。

今では、身長も高くなり大人じみた事も話すようになり、我が子ながら成長していることをうれしく思います。

この加悦谷高等学校で学んだこと、学校生活で得られた友人関係を、今後の人生に生かして行ってほしいと思います。私達親としては見守ることしかできませんが、これからの、なお一層の成長を願っています。つらい事や悲しい事もあったと思いますが、よくがんばったと思います。

卒業を出発として、新たな人生を構築して行って欲しいと思います。

指導にあられた先生方、3年間ありがとうございました。

3年間、高校生活が送れるかどうか不安でしたが卒業に漕ぎ付いたことに、心より感謝をしています。



「卒業おめでとうございます」

一会員

高校生活の3年間は、勉強やクラブ活動や学校の行事などいっぱいあって、あっという間だったと思います。

楽しかったこと、辛かったこと、いろいろな思い出を胸に、新しい世界へ羽ばたいて行ってください。

卒業後は、大学、専門学校、就職と進路は別々になると思いますが、大人に一步近づくので何事も責任を持ち、自ら考え、行動する力を身に付けてください。社会に出た時に、指示されたことは出来るが、自分自身では何も出来ないということのないように勉強だけでなく、いろいろな経験を積んで心身を鍛えてほしいと思います。

これからも、頑張ってください。

贈る言葉 ～3年担任団より～



「卒業する君たちへ ～約束～」



第三学年部長 竹下 宗樹

2年間という短い間でしたが、君たちと関わりを持てたことは、「教師をしていて本当に良かった！」と思っています。

忘れられないことは、2年生での修学旅行です。出発前日の結団式で「時間厳守は、修学旅行の生命線！」と話をし、時間を「守る」という「約束」をしました。このことを修学旅行期間中、忠実に守ることができました。出発時の集合時間厳守、全員が10分以上前に集合し、予定より早く出発しました。朝の起床時間、食事の時間、スキー講習の時間、全てにおいて完璧な修学旅行でした。

「約束」というのは、「守る」ことによって、その「約束」に関係する全ての人が、幸せになれるように思います。たった一人が守れなければ、残念な結果になるように思います。その一人にならないように、日頃から「約束」を「守る」よう心がけることが大切だと思います。習慣的なことは、すぐには変更できないものです。習慣を変更するには時間を要することが多いです。

また、「約束」は、言い換えれば「規則」や「決まり事」と言えると思います。社会に出ると行く先々で、その場所、その環境に適した「約束」があります。今まで自分の中で常識であったことが、常識でなくなることもあります。その場所の管理者とコミュニケーションをとり、どんな「約束」があるのか確認する必要があります。一般社会では、常識であっても、そのことが命にかかわるようなことが、場合によってはあるのです。

「TPO」という言葉を聞いたことがあると思います。「TIME」「PLACE」「OCCASION」「時」と「場所」と「場合」に応じて、約束を守り、言葉を選び、行動しましょう、ということです。大人としての対応を！

卒業し、旅立つ君たちへ贈る言葉とします。卒業おめでとう。

「3年間ありがとう」



3年1組担任 加藤 毅

卒業おめでとう。みんなが入学してきて、早いもので3年が経ち、もう卒業を迎えます。入学当時、みんなの不安や緊張、これからの学校生活を楽しみにしている表情。懐かしい。

私自身も初めての担任という事もあり、とても緊張していたのを思い出します。3年間思い出せば色んな事がありました。良い思い出も、悪い思い出も…。自分自身の未熟さや力のなさを感じる事が多々ありましたが、支え

てくれたのは31組のみんなでした。本当にありがとう。元気でノリの良いクラス。しかし、1,2年生の頃は学校行事等でもクラス内でも少し温度差があり、実は心配していました。そんな中で迎えた最後の学校祭。クラスで団結して勝ち取ったステージ発表の最優秀賞。体育祭の競技の部&総合優勝！みんなの思いが一つになることによって、成しえることのできる素晴らしさを感じた瞬間でした。

保護者の方をはじめ、これまでの高校生活で自分に携わってくれた全ての人に「感謝」を忘れずに羽ばたいて行ってください。

そしてこれからは「人との出会い」を大切にしましょう。これから先の様々な「出会い」すべてが、君たちを成長させてくれます。

僕の好きなナカムミツルさんの詩を贈ります。「人生は掛け算だ。どんなにチャンスがあっても君が『ゼロ』なら、意味がない。」

出会いはチャンス！みんなの未来が素晴らしいものになりますように！！

最後に保護者の皆さまにおかれましては、3年間ご協力していただき本当にありがとうございました。初担任として未熟な私に、お子様を預けていただき、ありがとうございました。3年間、精一杯努力してきたつもりですが、至らなかったことも多々あったと思います。皆さまに支えられながら、何とか卒業式を迎えることができました。本当にご協力ありがとうございました。

「君たちが進むその場所で」



3年2組担任 田中 克彦

当たり前のように授業に行って数学を教え、当たり前のようにSHRに行って連絡事項を伝えたり注意をしたりする日々にもピリオドを打つ時が来ました。いつかはこんな日が訪れると思っていたけれど、こんなにも早く訪れるなんて。時は容赦なく過ぎていくものと改めて痛感します。

2年生から2組の担任となり、微力で至らぬところもたくさんありましたが、ひたすらに君たちの頑張りを応援し続けてきました。担任として君たちに伝えたいことはたくさんありました。その中でも一番伝えたかったことは、「今いる場所で精一杯努力しなさい」ということでした。勉強では3年間、頭を悩まし続けたことでしょう。学校祭などではなかなか意見がまとまらず、投げ出したくなることもあったでしょう。「こんなはずじゃなかった」「もうやめてしまいたい」と嘆くこともたくさんあったと思います。でも縁あって同じクラスになった仲間と、辛いときもお互い支え合って励まし合って乗り越えてほしい、そして、「今いる場所」が「一番良い場所」であると感じてほしいと願っていました。どうなることかと

心配もたくさんしましたが、学校祭などで見せてくれた創造力や団結力は本当に素晴らしかったです。進路においても、まだ全員が決まったわけではありませんが、それぞれに目標を持って果敢に挑戦してくれました。君たちなりに、今いる場所で精一杯努力し、さまざまな場面で活躍してくれたと思います。

「ユビニケーション」という言葉を最近耳にしました。最近の中高生はメールやラインなどで「ユビニケーション」をとっているのだとか。確かに、メールやラインは便利だなと思います。でも、文字だけでは微妙なニュアンスなど、本当に伝えたいことがなかなか伝わりません。コミュニケーションの基本は、やっぱり相手を見て言葉で伝えること。今まで出会った人とも、これから出会う人とも、決して「指」と「文字」だけの繋がりにならず、「顔」と「言葉」で繋がってってください。

卒業おめでとう。君たちと一緒にここまで歩んでこられたことを嬉しく思います。ありがとう。「次に行く場所」が君たちにとって「一番良い場所」となりますように。

「33組のみんなへ」



3年3組担任 西川 千里

卒業おめでとうございます。お互いに緊張していた入学式からもう三年がたちます。

みんなにとって、この加悦谷高校での学校生活はどのようなものだったでしょうか。決して毎日が全て順風満帆だったわけではないと思います。悩んだり、迷ったり、苦しんだり、様々な経験をしたのではないのでしょうか。こうしたい、こうありたいという自分の理想の姿を、時には立ち止りながらも探し続けてきた三年間だったように思います。

2年生で新しいメンバーになり、私は担任、教科担当として、たくさんの時間をみんなと過ごしてきました。個性豊かですが、非常にマイペースな集団で、学校祭などの行事の度に冷や冷やさされました。ただ、少しずつですがお互いにコミュニケーションをとって協力し合うようになり、三年生の学校祭では前日までハラハラさせられたものの、最後は今までで一番のパフォーマンスを見せてくれました。3年間かけて、ひとつひとつ経験して乗り越え、学習にも前向きになり、成長していくみんなをこんなにも近くで見ることができ、本当に幸せに思います。

さて、みんなはこれからそれぞれの道を進んでいきます。環境がどうであれ、人生を楽しくするのもつまらなくするのも自分の考え次第です。周りの人や環境が自分を幸せにしてくれることはありません。結局は自分の心の持ちようです。どんな状況であっても、明るく前向きに粘り強く努力し続けてほしいと思います。また、家族や友人はもちろん、見えないところでたくさんの人に支えられていることへの感謝を忘れないでください。

33組のみんなのおかげで、私にとってもこの三年間は充実したものでした。私の失敗をいつも笑って許して

くれるみんなの優しさ、素直さに何度も助けられ、元気をもらいました。明日からみんなは学校に来ないのかと思えばさみしいですが、でも、ここから新しいスタートを切ってみんならしく活躍してくれると信じています。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。私自身が初めての担任で、不安に感じることや至らない点もあったと思います。様々な場面でご協力いただき、無事卒業式を迎えることができました。本当にありがとうございました。

「子供からの卒業そして将来への投資を」



3年4組担任 藤村 良平

小学校からの卒業、中学校からの卒業、そして、高校からの卒業と3回目の卒業を迎えることとなり、今回の卒業は、高校の教育課程の必要な科目等の単位を修得したという証

しでもある。おめでとう。

ただ「高校卒業」の持つ意味としては、一般の社会人とはほぼ同等の存在として認識されることが多くなるという側面がある。そこで、「高校卒業」は、はたしてそれに見合う自分であるかどうかという、反省をする機会でもある。すなわち、子供から卒業できたかどうかだ。

「人の話が聞けない。」多数を相手にして話をされていることが自分のこととして認識できない、何を話しているのか語彙が分からず意味が理解できない。

「ルール・マナーが守れない。」ゴミのポイ捨て日常、授業中の携帯操作日常、茶髪などの校則違反日常。

「ぼんやりと過ごしてきた日々」向上心なく、何も考えなくても生きてこられた。携帯ゲーム・メールに浸る日々。などなど。

社会にはこれらを許す寛容さはない。昔の人は良くいったものだ。「苦勞は買ってでもせよ」と。これは、若い時の苦勞や努力が将来の自分に返ってくることを知った人が悔恨を込めて言ったものだ。今、子供からの決別を図り、将来の自分に投資をしていこう。今からでも遅いということはなく、人生を変えることはそんなに難しいことではない。自分を見つめ、自分の将来は自分で開拓するものだと思ひ、そのためにすべきことが見えた瞬間から人生は変えられる。ただ、失敗を極度に恐れ、結局何もしないというのでは意味がない。成功や成達は失敗の後にあるものだという事を覚えておいてほしい。

人は社会とかかわりを持ち、社会に何らかの形で貢献していく生き物である。それを成し遂げるためには誠実に一生懸命生きることである。誤魔化しや偽りでその場を繕い、また、ぼんやりといい加減に日々を過ごし、いつの間にか年を取ってしまった、人生をサボった生き方は決して充実した、誇れるものではない。

将来、君たちに会ったとき、胸を張って生きている、そのような君たちであってほしい。幸多い人生を歩むことを願っています。

仲間との絆を深め、ゲレンデに思い出のシュプールを描いた修学旅行



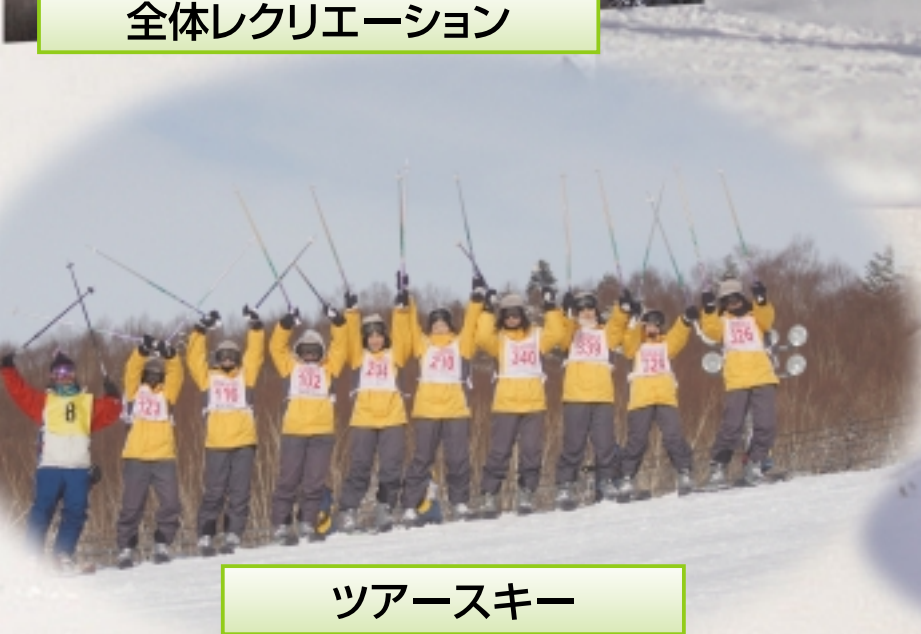
オリンピックホテルにて



全体レクリエーション



ナイトースキー



ツアースキー

－18℃という酷寒の中、スタートしたスキー講習でしたが、生徒たちの熱気によるものか、天候は次第によくなり、最終日には快晴の中、参加者全員がツアースキーにチャレンジしました。

今回の修学旅行を通じて、生徒が互いに支え合うことで絆が深まり、最高の修学旅行となりました。来年度は最高学年として加悦谷高校を牽引してくれることを期待します。



2月4日～8日

感謝の言葉 各キャプテン・部長より

「ウエイトリフティングを通して学んだこと」

ウエイトリフティング部 本田 大智



三年間ウエイトリフティング部に所属して学んだことは、アスリートとしての行動や自覚はもちろん、社会人として必要なことも学ぶことができました。それは、返事やあいさつなどの基本的な

ことから、後輩としての行動や先輩としての自覚、責任を強く感じ学ぶことができました。

この三年間で学んだことは、とても濃い内容で他では学ぶことができなかったことばかりでした。顧問の先生をはじめ、多くの方々に感謝し、この経験をこれからの人生で活かしていきます。



「3年間の部活を通して」

サッカー部 小長谷 剛史

サッカー部に入学し、部のみんなと毎日練習してきた日々は、高校生活での大きな思い出の一つになりました。

去年の三年生たちが引退し、自分たちが部の中心になり、さらにキャプテンになってからは色々大変でした。部員をまとめるためには、今まで以上の努力が必要でしたし、なかなか思い通りにいかず、悩んだこともよくありました。しかし、そんな中で同じ三年生の部員の仲間が協力し支えてくれたことは本当に助けになりました。そのおかげもあり、最後までやり遂げることができました。そして、部をまとめるためには何をすべきか、言いたいことをどうすればうまく相手に伝えることができるのかなど、多くのことを学ぶことができたと思います。また、自分から積極的に行動するという部分もキャプテンとしての役割をしていくうちに成長させることができたのではないかと思います。

顧問の先生方も短い時間の中で熱心に指導してくださり、とても感謝しています。ありがとうございました。

部活を通して、仲間と協力することの大切さ、目標に向かい努力することの大切さ、前向きに取り組む姿勢の大切

さを学べました。

これからの将来、この経験や学んだことを忘れずに、頑張っていきたいと思います。

「高校バレー」

女子バレーボール部 大木 あかり

私の高校での部活動は一瞬のうちに過ぎてしまったような気がします。ですが、近畿・全国大会出場やキャプテンなど、貴重な経験をすることができました。仲間との意思疎通の難しさや自分への甘え、キャプテンとしての無力さを知りました。毎日頭の中はバレーのことで埋め尽くされ、悩み苦しむ日々でしたが、その日々が今の私に繋がっています。ライバル校に勝利し仲間と抱き合って喜んだことや笑い合った思い出が沢山浮かびます。と同時に、最後まで見離さず指導してくださった先生方や頼りないキャプテンについてきてくれた後輩、いつも励まし背中を押してくれた友達や家族、そして沢山ぶつかりながらも日々バレーに打ち込んだ同期の仲間本当に感謝しています。高校での部活動を通して、礼儀やマナーだけでなく、自分が多くの人に支えられていることを知り、そのおかげで毎日笑顔でバレーをすることができました。

ありがとうございました。



「感謝」

硬式野球部 飯尾 雄生

私は、3年間硬式野球部に所属し、主将を務めました。この3年間、本当にたくさんのことを学びました。入学当初は、同級生は14人いましたが最終的に残ったのは7人でした。最後まで共に頑張ったメンバーに支えられ最後までやり遂げることができました。

また、監督が代わり少しずつ良い方向に向かいました。新体制となり、試行錯誤の繰り返しで、うまくいかない時もありましたが、その都度、何度も話し合いを重ねて解決しました。

最後の大会では、良い結果を残すことはできませんでしたが、「若狭スタジアム」という最高の舞台で試合をすることができ本当に良い思い出です。最後まで野球を続けて良かったと思いました。

現在、硬式野球部の後輩は、意欲的に取り組んでいます。

チーム目標が達成できるように時間を無駄にせず、後悔しないよう頑張ってください。

そして、最後に何より私たちを3年間支えてくださった方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

「部長として得たもの」

陸上競技部男子 老耄 勇輝

私は3年間の陸上競技部に所属し、多くのことを学び、鍛えられました。日々の地道な練習は、すぐに結果が現れるものとは言えず苦しいものでした。しかし、大会で記録を伸ばすことができた時の喜びは忘れられません。時には練習の苦しさや、チームを上手くまとめる事が出来なかったことから逃げ出したくなることも多々ありました。そんな私が3年間陸上競技を続けられたのは、部員たちの支えであったと思います。厳しい練習も部員達と共有しました。たくさんの感動もまた部員達と共有しました。私の3年間の陸上競技人生は、私を心身共に鍛えてくれただけでなく、集団を率いることの大変さや責任感、また、チームの大切さというとても大切なことを教えてくれました。

「感謝」

陸上競技部女子 中村 有希

私は、陸上競技部のキャプテンとしてチームをまとめることや、自分がチームの中心となって、みんなを引っ張ることに力を入れてきました。陸上競技は個人競技なので、チーム全体が同じ目標に向かって努力することは難しかったです。チームのメンバーがお互いにサポートしあうことによって、キャプテンをやり切ることができたと思います。仲間の大切さを学び、とてもやりがいを感じた期間でした。

また、全国大会に参加したり、近畿・東海地区の選抜合宿に参加したりしたことで、色々な先生や選手と関わりを持ち、陸上競技に対する姿勢や技術を培うことができました。

春から大学に進学し、新たな環境で陸上競技を続けていきます。3年間、私の陸上競技生活を支えてくれた家族や先生、加悦谷高等学校陸上競技部に心から感謝しています。

「三年間を振り返って」

バスケットボール部男子 白須 秀一

私は、3年間男子バスケットボール部に所属していました。3年間は、とても長いようでとても短いものでした。2年生になって先輩方が引退され、私達の代になりました。いろいろと言いあったり、もめることもありました。でも3年生になりインターハイ予選で2位になることができました。府下大会では、ベスト16という結果で終わってしまいましたが、私は、加悦谷バスケットボール部に入学してよかったと思っています。今のメンバーでよかったと思っています。今までいろいろな方に応援していただきました。ありがとうございました。加悦谷バスケットボール部は、今も一生懸命頑張っていますので、皆さんこれからもよろしくお願いします。最後に加藤先生、保護者の皆さん本当にありがとうございました。

「キャプテンになって学んだこと」

バスケットボール部女子 岩井 まどか

私は、3年間バスケットボール部に所属していました。1年生の頃は先輩方に頼ってばかりでしたが、人数が少なかったので試合に出ることができました。試合に出ることで先輩に対してもプレー中はしっかりと自分の気持ちを伝えなければならないということを学びました。2年生になり後輩ができたこと、キャプテンになったことで、みんなに指示をすることや、まとめることの難しさを知り悩みました。しかし、キャプテンになり悩んだことで得ることができたこともあります。それは、人に指示することは、まず自分ができてからということや、人に信頼してもらうことの大切さを学んだことです。

この3年間つらかったこと辞めたいと思ったことはたくさんありました。しかし、その分たくさんのことを学ぶことができました。バスケットボール部員、先生などたくさんの人に感謝しています。

「キャプテンを通して学んだこと」

ソフトテニス部男子 由利 将喜

キャプテンを通して学んだことは、練習中などにチームの雰囲気をよくして練習することや、応援してもらっている方々に感謝して部活動を行うことです。

僕が一年生の時、よくないチームの雰囲気で練習していました。その時は全然試合にも勝てずに負けてばかりでした。その時に、先輩方がチームの雰囲気をどうにかしようと動いてくださり、そのおかげでチームの雰囲気がよくなりました。先輩方が引退される時、「たのむよ」などと声をかけられたりして、自分が本当にキャプテンをしていけるか不安でした。キャプテンをしてみるととても大変で色々なことを悩みました。チームの雰囲気をよい状態に保とうとがんばりました。チームの雰囲気がよい状態で練習すると、色々なプレーが決まったり楽しく練習することができました。府下大会にも出場でき、チームの雰囲気の大切さが分かりました。

もう一つは、応援してもらっている方々に感謝をして練習することです。先輩方や保護者の方などに大会にきてもらい、よく応援していただきました。応援のおかげで勝つことができた試合もたくさんありました。応援してくださった方々、ありがとうございました。

キャプテンを通して、自分自身もたくさんの場面で成長できました。社会に出てからも、部活動を通して学んだことを活かしていきたいです。



「キャプテンとして」

ソフトテニス部女子 森下 愛美

先輩が引退されて、私がキャプテンを任された時、テニス部を自分が引っ張っていけるのか、本当に不安でした。頼りない私が、チームをまとめることは難しく、仲間にも迷惑をかけっぱなしでした。練習しても身が入らないことも多く、試合でも負けっぱなしの日が続き、本当に辛いことばかりで、何度も自分が嫌になりました。それでも、チームのみんなや先輩方、顧問の先生の支えがあり、最後の両丹総体の団体戦で3位という好成績を残すことができ、みんなで喜び合った時は本当に嬉しかったです。私たちを最後まで指導してくださった顧問の先生方とみんなの支えで、私はキャプテンを続けることができ、自分自身の心を鍛えることができました。そして、最後まで続けることの大切さを改めて知り、成長することができました。



後輩たちにも沢山迷惑をかけました。私たちが引退してから、人数も少なくなりましたが大変だと思いますが、目標に向かって仲間と協力しながら、これから先も頑張りたいです。本当に3年間ありがとうございました。

「三年間で学んだこと」

卓球部 岡田 大樹

私が三年間のクラブ活動を通して学んだことは、協力することの尊さです。先輩方が引退し、主将を任せられた時、自分に何ができるのか分からず戸惑うことが多くありました。そんな時、仲間たちや顧問の先生が助けてくださいました。肩を張っていた私に、仲間と協力し、楽しむことの必要性を教えてくださいました。その結果、練習もスムーズにでき、よい成果がでると実感しました。

仲間と協力して、困った時には周囲に頼る姿勢を忘れずに進学先で頑張っていきます。



「感謝」

スキー同好会 老耄 勇輝

私は、陸上競技部に所属し、陸上競技のオフシーズンにスキー同好会として活動していました。アルペンスキーのスラロームとジャイアントスラロームの2種目を専門とし、近畿北部の小さな大会から、長野県で開かれる上位大会に通ずる試合にも出場しました。高校1年の時には近畿大会に出場し、他府県の選手と競い合いました。1人で東北や信越まで行き、強化合宿や大会に参加してきたことで、競

技力だけでなく、行動力や積極性も鍛えることができたと思います。アルペンスキーは、高校生の自分に多くの良い経験をさせてくれたと思います。

「三年間の思い出」

剣道同好会 今井 祐二

今思えば、剣道同好会に入ってから色々な経験をさせてもらった。入部した当初は先輩を合わせても四人という少人数でした。稽古時間が少ない中で工夫をして、少しでも強くなる努力をした。先輩が卒業した後も友人と二人で稽古を続け、二年の秋には目標であった剣道三段に二人とも合格することができた。自分達の頑張り工夫次第で強くなれることが分かった。この経験を社会に出ても活かしたい、頑張っていきたい。

「合唱部で得たもの」

合唱部 藤田 美咲

私は、高校では何の部活も入るつもりはありませんでした。しかし、何故この部活に入部したかという、先輩の勧誘で音楽室に行った時の部内の雰囲気がとても楽しかったからです。実際、入部してみると1年生の時は練習の厳しさに耐え切れず、心が折れてしまいそうになったけど、また、先輩や親にはげまされて続けることが出来、京都府コンクールで金賞と理事長賞を受賞できた時は、今まで必死に練習してきて良かったという達成感でいっぱいでした。2年生に上がると、後輩もでき自分が教える立場となってより忙しくなりましたが、良い後輩に恵まれて楽しく活動が出来ました。そして先輩方が卒業され、3年生になると部長という大役を務めることとなった私は、今までにみんなをまとめる役なんてしたことなかったし、いつもまとめてもらう側にばかりいたので最初の頃は、毎日のように悩んでいました。けれど、日に日にその役割が分かってきて、正直部長をする以前と比較して、自分の意見をいろんな所で言えるようになったし、良い意味で自分に自信が持てるようになりました。最後の京都府コンクールでは、悔しくも目指していた金賞を取ることは出来なかったけど、今思えばコンクールに向けて仲間と共に毎日練習を頑張ってきて、少ない人数でもあの舞台に立てたということが一生の思い出になるはず。ただそう思えるのも毎日全力で私たちに指導してくださった牛田先生や、忙しいところ音楽室まで足を運んでくださった先輩方、3年間私たちを影でいつも支えてくれた家族みんなのおかげです。本当に感謝しています。ありがとうございました。



「ACCEL!」

吹奏楽部 中嶋 あかり

吹奏楽部で過ごした日々は、楽しかったことも辛かった

ことも、全てが大切な思い出です。先輩方が引退され、部長になってからは不安でいっぱい、どうすればうまくまとめることができるのかと悩むこともたくさんありました。そのような時に支えてくれたのは三年生の仲間たちでした。壁にぶつかることもありましたが、全員で話し合い、協力して乗り越えることができました。部活動を通して多くのことを学び、成長することができたと思います。

今までお世話になった先生方、家族、そして応援してくださった皆様には本当に感謝しています。ありがとうございました。



「茶道から学んだこと」

茶道部 小室 美紅

私は高校から茶道を始めました。最初は茶道なんて簡単にできるものだと思っていましたが、一つ一つの所作が大変難しく意味があるものだと感じるようになりました。一つのお茶を点てるのにゆっくりと時間をかけ、心を込めておもてなしをすることの大切さを学ぶこともできました。週に一度だけの活動だったので、文化祭前などの練習がなかなか進まず焦りましたが、部員みんな協力して一つのことを成し遂げることができました。茶道を通して着物の着方や、地域の方の前でお点前をするという体験ができたので本当にいい経験になりました。顧問の先生、お茶の先生、先輩方、後輩たち、そして三年間一緒に頑張ってきた大切な仲間感謝しています。今まで本当にありがとうございました。

「思い出」

ESS部 平野 理絵

私がESSに入って一番印象に残っていることは、与謝野町の姉妹都市アベリスツイスの高校生との英語での手紙交換です。書きたいことを英語にすることはとても難しく、顧問の先生やAETの先生に教えてもらいながらやっと書くことができ、とても貴重な体験ができました。他にも、AETの先生と外国のお菓子作りや世界の国調べ、外国の映画鑑賞などをしてきました。夏休みには英語の紙芝居を作って、学校祭で展示したりと、普段あまりできないようなことができたり、英語やたくさんの国に興味を持つことができてとてもよい思い出になりました。



「部活動で得たもの」

美術部 大槻 直美

美術部では少ない人数の中で、そして作品制作は主に個

人の活動でしたが、部活動中は楽しく賑やかに取り組むことができました。作品制作では、思うようにいかず悩んだりしたこともありましたが、一生懸命制作した作品が完成した時は大きな達成感と充実感を得ることができました。また、展示会では、何を表現したいのか、など自分の作品について説明することがあり、緊張や恥ずかしさの中で自分の言いたいことを人に伝えたり、他の生徒の作品を鑑賞することで自分の作品の改善点を知るなど、とてもいい経験になりました。

私は、上級生がいなかったこともあり、二年生の頃から部長を務めていました。入部した一年生に指示や説明をしてみ、皆をまとめる大変さを知りました。初めは部員とよい関係を築くことができるかという不安もありましたが、徐々に皆とコミュニケーションをとれるようになり、楽しい時間を過ごすことができました。



部長として至らない点も沢山あったと思いますが、ついてきてくれた部員たちやサポートしてくださった顧問の先生方にとっても感謝しています。部活動で得たさまざまな経験を、これからの生活に活かしていきたいです。

「感謝」

書道部 小川 千晴

紙に筆を入れてから書き終わるまでの緊張感。墨の濃淡で表現する力強さや柔らかさ。独特の書道の世界は私に新しい価値観と楽しさを教えてくれました。全てが自分の選んだ道でどこまで努力をするかも自分次第という現実と向き合うことにとても悩まされ、逃げたい。と思うこともありましたが乗り越え、努力できた日々は私にとって宝物です。

顧問の山形先生には常に的確なアドバイスをしていただき、大きな舞台へのチャンスを掴ませていただきました。先生に実際に書いていただき、その呼吸を学べたことは私が技術を伸ばせたポイントだったと思います。

2年間という長い部長の期間は責任と仕事の多さにとっても戸惑いましたが、いつも協力して行動してくれた部員のおかげで楽しく活動できました。たくさんのサポートをしていただいた先生方や部員に本当に感謝しています。



三学期を振り返って



1年薬物乱用教室 1月17日



III類卒業研究発表会 1月15日



2年性教育(人権)講演会 1月24日



1年百人一首大会 1月31日

リーディングコンテスト 1月17日



3年III類スケート実習 1月17日